



## スタジアムから差別撲滅を目指して

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

サッカーの試合中、ピッチで素晴らしいプレーが繰り広げられる一方で、人種や性を差別するやじを飛ばしたり、横断幕を掲げたりする行為が大きな問題として取り上げられました。

日本においても、サポーターが「JAPANESE ONLY」という人種差別的な横断幕を掲げ、レイシズム（人種差別）だと大きな問題となりました。

そこでFIFA（国際サッカー連盟）はロシア大会で、差別を監視する新しいシステムを導入しました。最高の舞台であるワールドカップで、差別を断固として許さないという姿勢を示そうとしたのです。

しかし、その後も差別行為は後を絶ちません。

ファンの中には、「サッカーという共通言語を通して仲良くなれる機会」と捉えている人もいるのに、差別的な発言や横断幕を掲げるなどの言動は、非常に残念です。

「自分の応援しているチームが負けていたから、つい感情的になって・・・」

自分が応援しているチームであるかどうかに関わらず、プレーしている選手に敬意を表する。それが、ファンとしてのマナーではないでしょうか。勝利をめざして一生懸命プレーする姿や、素晴らしいプレーには、自然に感動してしまうものであり、応援したくなるものです。それは勝負を超え、更には国や地域、人種、性をも超えたものではないでしょうか。

スポーツは色々な社会的分野の中で、最も人権が徹底されている領域であり、また、無差別、平等です。皮膚の色、国籍、民族、人種、宗教、一切のちがいを超えて、同じ条件で競い合います。だからこそ素晴らしいのです。

ある人は、「ワールドカップは差別問題に光をあてる絶好のプラットフォームだ。真実を明らかにすることで、みんなが考えるきっかけにしたい。私たちは、多様性に対する尊敬と価値という肯定的なメッセージを伝えていきたい」と話しています。

ワールドカップという華やかな舞台では、差別という事実をつまびらかにして、撲滅に向けて汗を流している人たちもスタジアムにいます。

スタジアムから、そして、私たちから、差別撲滅を発信していきましょう。

宇陀市人権啓発活動推進本部

2019. 4

※この啓発ビラへのご意見・ご感想は

☎0745-82-2147 または [jinken@city.uda.lg.jp](mailto:jinken@city.uda.lg.jp)

